

# 月刊 やちまなこ

2014.7.15 発行

No. 200

## 7 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



### 湿原散歩

気温が上がり、コエゾゼミの鳴き声が聞こえてきた。夏の陽射しを受けた木々の葉は、様々な緑の色彩を放っている。そんな葉の上に虫こぶを見つけた。袋状や球状、角状などがあり、葉の種類によりその形も異なり、中にはハエやアブラムシ、タマバチ、ダニなどの仲間の命が宿っていた。



## コッタロ川と湿原のほとりから

### 169 7月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

雨，雨，雨，6月7日からの記録的な長雨にショパンの『雨垂れ』を重ね合わせ乍ら耳を傾けていると，格別な情感がこもるのを覚えます。濃霧に加え，台風くずれのぐずついた空模様で冷夏の予報が大当たり！のコッタロは，朝の気温も＋10℃前後の肌寒さ。草木の繁茂が著しく，昼尚暗き異様さで，“五里霧中熊横切る夏木立ち”と云ったところ。昔から「クマさんの通り道」となっている我家周辺の山や湿原に足を踏み入れる勇氣はございません。

ところで，営巣に再チャレンジしていた丹頂のコツ&タロに1羽のヒナが誕生したのは，第2コツ&タロの19，20羽目に遅れること40日目。孵化後7日目にして初めての庭デビューを果たした22羽目と対比する目的で双方を同日時に写しましたので御覧下さい。甲斐がいしくお世話する双番の似た様な光景を見ると一目瞭然，ヒナの大きさに格段の相違があり，つついほほえんでしまうでしょう？撮影から20日を経た本日（10日）は，さらにさらに大きく伸びて，雨にもかかわらず，池の中や草地を走り廻っており，お達者クラブのメンバーぶりを発揮しているではありませんか。

一方，巣立ちした野鳥の子等は，四方の山や湿原から，その賑やかな鳴き声を響かせている中，やはり夏鳥の渡来数が減っていることに気付かされております。と云うのも，ノゴマ・クロジ・ビンズイ・等の姿が見られなかったからかもしれませんね。加えて，もうとっくに産まれているはずのエゾ鹿のバンビ達も一向に現れず，庭を占領しているのは一頭の若鹿で，珍しく美しいお尻の持ち主。名付けて「けっ白鹿」。両眼の上に2つの袋角が出始めた♂鹿は大変なイタズラ好き。何しろ花畑の花という花を手当たり次第にたいらげて，あろうことか，人には毒のスズランを根こそぎたいらげてしまい，ケロリ！としていて，追い払おうにも逃げません。己が愛されているのをひしと実感しているらしいのです。そこで今後の鹿対策をシカと考えなければなりませんまい。





## 湿原の住人たち その160

## コムクドリ

ムクドリよりひとまわり小さい全長19cmのコムクドリは、毎年5月頃、繁殖のために渡来し、10月頃越冬地へ戻ります。雄(左)は頭が白く頬が茶色、背は光沢のある紫がかった黒色で、雌(右)は全体的に薄い茶色です。くちばしはどちらも黒色です。今年は、センター内からも見える塘路湖岸の樹洞に営巣した番いがいて、交替で口いっぱい餌の幼虫やトンボをくわえて運んだり、糞を外に運んだり、出入りの際にカラス軍団を警戒する姿など、子育ての様子を室内から双眼鏡を使って観察できました。このヒナはすでに巣立ったようですが、多くの野鳥が子育てをしている時期なので、ヒナを見つけたら遠くから見守ってください。



## 縄文土器を作りました。



自然ふれあい行事「粘土で土器を作ろう」(標茶町郷土館共催)を13日に開催しました。標茶町郷土館学芸員の坪岡始さんを講師に、塘路から出土した縄文時代の土器や黒曜石の矢じり、石斧などを参加者に見せて触ってもらい説明を受けました。土器を作る作業では、ひも状にした粘土を輪積みしながら作り、その際に空気が中に残ると焼いた時に膨張して土器が破裂するため、隙間なく作るコツなどを教わりました。センター近くにある復元した竪穴住居を見学しながら、当時の湿原で暮らしていた生活の様子なども説明してもらいました。午後からは土器の表面に縄文を付ける作業となり、自然乾燥させたあと、8月には野焼きをして完成させます。

## つぼっちの塘路周辺うろうろ日記 Vol.75「老舗観光拠点：塘路元村！」

現在、あるこっと付近の塘路湖湖岸で、新規遊歩道の工事が行なわれています。これは環境省による事業で、あるこっとや郷土館など施設が固まっている塘路元村地区を「塘路集団施設地区」と定め、釧路湿原観光の拠点として整備する中で計画され実施しています。

実は場所に施設が固まっているのは、場所が空いていたからではありません。元村地区を含む塘路湖・シラルトロ沼周辺は、昭和36年に標茶町立自然公園となりました。そして公園内の元村地区を中核地として「青少年の村」を建設する事になったのです。この時に建設されたのが郷土館と、ピルカトウロの前身青少年体育センターです。昭和62年に釧路湿原国立公園が制定され町立自然公園は解除されましたが、元村地区は、そのまま観光の拠点として更に整備が進み、元村キャンプ場やあるこっと、元村ハウスぱるがオープンしました。いわば元村地域は釧路湿原観光地の老舗と言えるかもしれません。

坪岡 始(標茶町郷土館学芸員)



・現在の塘路橋(R391号にかかっている橋)の近くに  
あった町立公園の看板とボートのりばの看板。  
実は、町立公園の看板の方は現存しています。

## 8月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

## 夏休みプラ板工作

〔日時〕 8/9 (土) 10:00~12:00

[定員・参加料] 8名、200円（材料費）

〔場所〕 塘路湖エコミュージアムセンター

〔持ち物〕 あれば、油性マジック

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ 申し込み問い合わせは 塘路湖エコミュージアムセンターまで TEL 015-487-3003

## 夏の湿原花ハイク

[日時] 8/3 (日) 10:00~12:00

## ザリガニウォッチング

[日時] 8/17 (日) 10:00~12:00

         申し込み問い合わせは 温根内ビジターセンターまで TEL 0154-65-2323

## 塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(6/16)サギスゲ、ネムロコウホネ、カキツバタ、エゾキヌタソウ (6/17)バイケイソウ、ササバギンラン、ギョウジャニンニク (6/27)カンボク (6/28)チシマアザミ、コケイラン、エゾタツナミソウ、ホオノキ、オオダイコンソウ (7/2)クサフジ、オニシモツケ、ホザキシモツケ、シベリアシオガマ、ツルウメモドキ (7/4)エゾノミズタデ (7/13)ウツボグサ、ヘビイチゴ、エゾノレンリソウ (7/14)ヒツジグサ、アラゲハンゴンソウ、ミズチドリ、エゾイヌゴマ、ハシドイ、エゾノヨロイグサ、オオウバユリ、フランスギク

【鳥】(6/16)ハリオアマツバメ、ヨシガモ、ノビタキ (6/17)アカエリカイツブリ、コヨシキリ (7/2)オオジシギ、アオバトの声 (7/6)餌運びをするコムドリのパア (7/13)アマツバメ、ハヤブサ (7/14)マガモ、シジュウカラ、コヨシキリの幼鳥、アオジ、ウグイスの声

【その他】(6/16. 7/6) マイマイガの幼虫. コサナエ (6/20) エゾタヌキの死骸 (6/24) サトキマダラヒカゲ. ホンサナエ (6/28) エゾイトトンボ (6/29) コチャバネセセリ. ヨツボシトンボ (7/13) モンスズメバチ. カラスアゲハ (7/14) エゾシロチョウ. イチモンジチョウ. エゾスジグロシロチョウ

## ■サルボ・サルルン展望台利用の方へ

展望台へ向かう階段部分などが破損しているため、現在利用することができません。（開通未定）

■今年も夏期水曜開館を実施します。7/23.30.8/6.13.20 は開館します。

◆日出・日入時間 7/15(3:56, 19:00). 7/31(4:12, 18:45). 8/14(4:26, 18:27)



顔に「ハ」の字がある毛虫（ドクガ科マイマイガ）

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail: [emc@hokkai.or.jp](mailto:emc@hokkai.or.jp)

開館時間 10：00～17：00（11月～3月は16：00まで）

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料